

## 広島県フロラ覚書(7)\*

世羅徹哉<sup>1)</sup>・近藤芳子<sup>2)</sup>

### Memoranda for the Flora of Hiroshima Prefecture(7)

Tetsuya Sera<sup>1)</sup> and Yoshiko Kondo<sup>2)</sup>

#### Summary

1. *Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch was collected from Hiroshima Prefecture for the first time.

2. *C. longifolia* was revealed to live in various habitat and so it was suggested that the species had been differentiated genetically in Japan.

クゲヌマラン (*Cephalanthera longifolia* (L.) Fritsch) が広島県内に生育することを確認したので報告する。

#### 経緯

2010年5月、著者の一人近藤は瀬戸内海に面した山地斜面で、開花期を過ぎた地生ラン10数株が、約50mの範囲に生育しているのに気づいた。一見ギンランのようであったが葉質が厚く光沢があり、基部が少し茎を抱くなど、ギンランとは異なる特徴を持っていたため標本とし、広島市植物公園に詳細な調査を依頼した。世羅はギンランとは異なる分類群であるという印象を得たが花部の詳細を観察することができなかつたため翌年の開花期に調査することとした。2011年5月13日に生育地を訪れ、15個体の生育を確認したがすでに開花期は過ぎ、良好な状態の花を観察できなかった。しかし、萎れかけた花は白色で、唇弁基部に明瞭な距がなかったことからクゲヌマランではないかと推定された。2012年5月5日に再度調査を行い、花の詳細を観察した結果クゲヌマランと同定した。生育地は当初確認した範囲よりも広く、約30株の生育を確認した。

本稿は、クゲヌマランが広島県内に自生することを初めて記録した報告である。一方で、本種はギンランと外見が似ているため、これまでに県内で採取され、広島市植物公園および広島大学大学院附属宮島自然植物実験所に所蔵されているギンランの標本を調査したがクゲヌマランは含まれていなかった。したがって、広島県内で本種の自生が確認されているのは、沿岸部の1ヶ所だけである。

#### 観察した植物の生育地および形態的特徴

今回観察した植物の生育地は、瀬戸内海に面した海拔高度350mの落葉樹林下であった (Fig.1A)。この場所の潜在自然植生は沿岸部暖温帯林 (シイ群落・アラカシ群落) だが、現存植生はアベマキ—アラカシ群落 (広島県 (編) 1979) に属すると思われた。

生育していた個体の大きさは、高さ10cm~40cm、着花数は0~10個の範囲であった。このうち証拠標本とした個体 (hbg-20904, 20916) の外部形態は次の通りであった (Fig.1B, C)。

地下には長さ1.3cmの茎があり、多肉質でひも状の根がある。根は乾燥状態で直径約1mm、密に根毛がある。地上茎は高さ40cm (花序部含む)。

\* Contribution from the Hiroshima Botanical Garden No.99

1) 広島市植物公園

2) 広島市安佐南区長東

Bulletin of the Hiroshima Botanical Garden, No.31:39-42

1) The Hiroshima Botanical Garden

2) Nagatsuka, Asaminami-ku, Hiroshima City.